

シラバス

指定番号 186

商号又は名称：株式会社アイ・エム・シー

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	① 現在の国の施策の中で提供される、様々な介護サービスを福祉理念にそって適切に理解できる。 ② 介護職が現在どのような環境で、どのような役割を果たして仕事を行っているのか、具体的に学び、今後取り組むべき課題も含めて理解できる。 ③ 以後の研修に興味を持って意欲的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①多様なサービスの理解	3	3		<講義内容> ・介護保険サービス（居宅、施設）の概要
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		<講義内容> ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ（視聴覚教材の活用等） ・ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 ・DVD を視聴し施設紹介を視覚聴覚で学び、解説 ・これから学ぶ介護について小グループで現時点でのディスカッションをさせる
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	DVD デッキ 職務の理解 DVD (中央法規)
------------	--------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 186
商号又は名称: 株式会社アイ・エム・シー

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	① 介護職が、その職務の中で、利用者の個人としての尊厳を守り、利用者本人とともにその主体的な生活を実現させる担い手であることに気づく。 ② すべての福祉の目的である自立（自律）支援を理解する。 ③ 利用者の尊厳を傷つける行為や虐待に関する知識の習得。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①人権と尊厳を支える介護	3	1	2	<講義内容> ・個人としての尊重 ・アドボカシー ・エンパワメントの視点 ・「役割」の実感・尊厳のある暮らし ・利用者のプライバシーの保護 ・ICF（国際生活機能分類） ・QOL（生活の質） ・ノーマライゼーション ・虐待防止、身体拘束禁止 ・個人の権利を守る制度の概要 ・上記具体例を挙げながら自立への気づきを促す <演習実施方法> 「尊厳を傷つける言動とその理由」について考えさせる <通信学習課題の概要> ・虐待の種類、通報 ・身体拘束なくすための心構え
②自立に向けた介護	4	1	3	<講義内容> ・自立、自律支援 ・残存能力の活用 ・動機と欲求 ・意欲を高める支援 ・個別性/個別ケア ・重度化防止 ・介護予防の考え方 <通信学習課題の概要> ・その人らしさ ・生活の質の向上と介護予防
③人権啓発に係る基礎知識	2	2		<講義内容> ・人権について ・身近な人権 ・人権への取り組み
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 186
商号又は名称: 株式会社アイ・エム・シー

科目番号・科目名	(3)介護の基本			
指導目標	① 介護職に必要な専門性と職業倫理を理解する。 ② 利用者に対する個別化の重要性を認識し、十人十色の生活を支えるための視点を学ぶ。 ③ 介護現場に生じがちなリスクとリスクマネジメントについて知る。 ④ 介護職に起こりやすい健康がいとその予防・対処法を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1	1	<講義内容> ・訪問介護と施設介護サービスの違い ・地域包括ケアの方向性 ・介護の専門性 ・介護に係わる職種 <通信学習課題の概要> ・地域包括支援センター
②介護職の職業倫理	1	0.5	0.5	<講義内容> ・職業倫理 <演習実施方法> ・小グループで介護福祉士会倫理綱領を確認し合う <通信学習課題の概要> ・日本介護福祉士会 ・倫理綱領
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	1	1	<講義内容> ・介護における安全の確保 ・事故予防、安全対策 ・感染対策 <通信学習課題の概要> ・介護事故 ・感染予防
④介護職の安全	1	0.5	0.5	<講義内容> ・介護職の健康管理が介護の質に影響 ・ストレスマネジメント ・腰痛の予防に関する知識 ・手洗い・うがいの励行、 ・手洗いの基本 ・感染症対策 <通信学習課題の概要> ・ストレス ・心のメカニズム
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 186

商号又は名称：株式会社アイ・エム・シー

科目番号・科目名	(4)介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	① 介護保険制度や障がい者総合支援制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護保険制度	3	0.5	2.5	<講義内容> ・介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ・ケアマネジメント ・地域支援事業 ・地域包括支援センターの設置 ・日常生活支援総合事業 ・地域包括ケアシステム ・保険制度のしくみの基礎的理解 ・介護給付と種類、 ・予防給付 ・財政負担 <通信学習課題の概要> ・制度の実施主体 ・創設の背景について
②医療との連携とリハビリテーション	3	0.5	2.5	<講義内容> ・医行為と介護 ・訪問看護 ・施設における看護と介護の役割、連携 ・リハビリテーションの理念 <通信学習課題の概要> ・医行為 ・リハビリテーションの意味
③障がい者総合支援制度およびその他制度	3	0.5	2.5	<講義内容> ・障がい者福祉制度の理念 ・障がい者の概念 ・ICF (国際生活機能分類) ・障がい者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業 <通信学習課題の概要> ・エンパワメント ・成年後見制度
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 186
 商号又は名称: 株式会社アイ・エム・シー

科目番号・科目名	(5)介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	① 介護職には、個々の高齢者や障がい者のコミュニケーション能力や特性に配慮したかかわりが必要不可欠であることを学び、その技術を習得する。 ② 不適切なかかわりとはどういったものであるかを理解する。 ③ 専門職間でのチームケアの重要性・有効性を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護におけるコミュニケーション	3	2	1	<講義内容> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴 ・言語的コミュニケーションの特徴 ・非言語的コミュニケーションの特徴 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況状態に応じたコミュニケーション技術の実際 <演習実施方法> ・2人組 小グループにおいて受容・共感を体験 <通信学習課題の概要> ・家族の4つの心理ステップ ・バイスティック7原則
②介護におけるチームのコミュニケーション	3	1	2	<講義内容> ・記録における情報の共有化 ・報告、連絡、相談の留意点 ・コミュニケーションを促す環境 ・ケアカンファレンスの重要性 <演習実施方法> ・2人組 小グループにおいて記録とそれが伝える事を体験 <通信学習課題の概要> ・障がい者とのコミュニケーション ・記録の重要性
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 186
商号又は名称: 株式会社アイ・エム・シー

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	① 加齢や老化に伴う心身の変化(身体的・社会的・精神的な側面に着目した)を理解する。 ② ライフサイクル理論における老年期のステージの葛藤や発達課題を理解する。 ③ 高齢者に多い疾病と日常生活上の留意点を知る。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①老化に伴うところとからだの変化と日常	3	2	1	<講義内容> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 <通信学習課題の概要> ・老化に伴う注意力・記憶・感覚
②高齢者と健康	3	1	2	<講義内容> ・高齢者の疾病と生活上の留意点 ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意 <通信学習課題の概要> ・肺炎 ・消化器
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 186

商号又は名称： 株式会社アイ・エム・シー

科目番号・科目名	(7)認知症の理解			
指導目標	① 認知症の基礎的知識を習得する。 ② 認知症ケアの理念を理解し、利用者の心理や行動に配慮した、人間性豊かな介護とは何かを学ぶ。 ③ 認知症利用者の生活に即したアクティビティ・ケアの学習や家族へのレスパイトケアを学ぶ。 ④ BPSDの対応について学ぶ。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①認知症を取り巻く状況	1	0.5	0.5	<講義内容> ・認知症ケアの理念 ・パーソンセンタードケア <通信学習課題の概要> ・パーソンセンタードケア
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	1	1	<講義内容> ・認知症の概念、定義 ・認知症の原因疾患とその病態 ・原因疾患別ケアのポイント ・もの忘れとの違い ・せん妄の症状、 ・健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア） ・治療 ・認知症に使用される薬 <通信学習課題の概要> ・認知症種類
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	1	1	<講義内容> ・認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の利用者への対応 ・認知症の進行に合わせたケア <演習の実施方法> ・認知症の人の内的心理を具体事例を基に小グループで考える <通信学習課題の概要> ・BPSD
④家族への支援	1	0.5	0.5	<講義内容> ・認知症の受容課程での援助 ・介護負担の軽減（レスパイトケア） <通信学習課題の概要> ・地域介護支援 ・家族の役割
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 186
 商号又は名称: 株式会社アイ・エム・シー

科目番号・科目名	(8)障がいの理解			
指導目標	① 障がいの理念と、ICF、障がい者福祉の理念について理解する。 ② 高齢者介護との違いや、それぞれの障がい特性をふまえたケアの重要性を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①障がいの基礎的理解	1	0.5	0.5	<講義内容> ・ I C F の分類と医学的分類 ・ I C F の考え方 ・ ノーマライゼーションの概念 <通信学習課題の概要> ・ ICIDH と ICF の違い
②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	0.5	0.5	<講義内容> ・ 身体障がい ・ 知的障がい ・ 精神障がい (高次脳機能障がい、発達障がいを含む) ・ その他の心身の機能障がい ・ 上記の障がいの特性によるコミュニケーション法や心理、行動の援助のポイント <通信学習課題の概要> ・ 障がいの特徴
③家族の心理、かかわり支援の理解	1	0.5	0.5	<講義内容> ・ 家族への支援 ・ 障がいの理解、障がいの受容支援 ・ 介護負担の軽減 <通信学習課題の概要> ・ 対象喪失 ・ 障がいの受容段階
(合計時間数)	3	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 186

商号又は名称：株式会社アイ・エム・シー

科目番号・科目名	(9)こころとからだのしくみと生活支援技術 ＜ア. 基本知識の学習＞			
指導目標	<p>① 介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的知識を介護の展開とともに、模型を使用した説明、講師による実演等により理解する。</p> <p>② サービス提供事例の紹介により、利用者が自己の生活に満足感や充足感を感じることができるような QOL の高いサービスが求められており、そのためには介護職としての専門的かつ適切な技術が必要であることを理解する。</p> <p>③ イの④～⑪のような個々の生活場面の援助法として、根拠ある理解と介護技術の習得をする。</p> <p>④ また、介護技術の提供時に必要な、本人の主体的意欲を引き出す自立（自律）支援のための、声掛けや介助のポイントを習得する。</p> <p>⑤ 個人の尊厳ある「死」を見据えたうえでの充実した「生」について考え、ターミナルケアの考え方や対応、介護職のはたす役割、多職種との連携を学ぶ。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護の基本的な考え方	3	1	2	<p>＜講義内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除） ・法的根拠に基づく介護 <p>＜通信学習課題の概要＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICFとQOL
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	1	2	<p>＜講義内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因 ・こころの持ち方が行動に与える影響 ・からだの状態がこころに与える影響 <p>＜通信学習課題の概要＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マズローの欲求段階説
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	1	3	<p>＜講義内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・筋、骨、関節に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・こころとからだを一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点 <p>＜通信学習課題の概要＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイタル ・自律神経
(合計時間数)	10	3	7	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 186

商号又は名称： 株式会社アイ・エム・シー

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 <イ. 生活支援技術の講義・演習>			
指導目標				
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
④生活と家事	2	1.5	0.5	<講義内容> ・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活援助 ・具体的な事例を伝える <通信学習課題の概要> ・家事援助 ・排泄物のついた衣類の洗い方
⑤快適な居住環境整備と介護	2	1.5	0.5	<講義内容> ・高齢者、障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ・家庭内に多い事故・バリアフリー ・在宅改修 ・福祉用具貸与 <演習実施方法> ・テキストやカタログ、実物を見てイメージ内で生活と結びつける
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	6.5	0.5	<講義内容> ・整容に関する基礎知識 ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ・身じたく ・整容行動 ・洗面の意義、効果 <演習内容> ・口腔ケアグッズを手にしエア体験
⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	13	13	0	<講義内容> ・移動、移乗に関する基礎知識 ・さまざまな移動、移乗に関する用具とその活用方法 ・利用者や介助者にとって負担の少ない移動、移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ・移動と社会参加の留意点と支援 ・褥瘡予防 <演習内容> ・DVD 車いすの移乗の介助を視聴し解説 ・2人一組で歩行介助 体験・基本的技術指導 ・ベッド上の利用者の動き、ベッドから車いす(逆も)の基本的介護技術の習得
⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	6.5	0.5	<講義内容> ・食事に関する基礎知識 ・食事環境の整備、食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ ・楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ・食事と社会参加の留意点と支援 ・食事をする意味 ・食事のケアに対する介助者の意識 ・低栄養の弊害 ・脱水の弊害 ・食事と姿勢・咀嚼・嚥下のメカニズム ・口腔ケアの定義 ・誤嚥性肺炎の予防 <演習内容> ・DVD 食卓で行う食事の介助を視聴し解説 ・視覚障害者の食事介助を2人一組で体験、基本的技術指導 ・方麻痺の人の食事介助を2人一組で体験、基本的技術指導
(合計時間数)				

使用する機器・備品等	DVD デッキ DVD (中央法規) 車いす ベッド 杖 体位変換用具 段差
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 186

商号又は名称：株式会社アイ・エム・シー

科目番号・科目名				
指導目標				
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑨入浴、清潔保持に関連した ところとからだのしくみと自立 に向けた介護	6.5	6.5	0	<講義内容> ・入浴、清潔保持に関連した基礎知識 ・さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法 ・楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <演習内容> ・DVD 個別浴槽で行う入浴の介助を視聴し解説 ・2人一組で入浴介助を体験 基本的技術の指導
⑩排泄に関連したところとから だのしくみと自立に向けた 介護	6.5	6.5	0	<講義内容> ・排泄に関する基礎知識 ・さまざまな排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <演習内容> ・DVD トイレで行う排泄の介助を視聴し解説 ・2人一組で排泄介助体験、基本的技術指導 ・上記オムツ ポータブル
⑪睡眠に関連したところとから だのしくみと自立に向けた 介護	5	4.5	0.5	<講義内容> ・睡眠に関する基礎知識 ・さまざまな睡眠環境と用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <演習内容> ・シーツテクニック 安楽な体位の介助の基本的技術指導
⑫死にゆく人に関連したところ とからだのしくみと終末期 介護	3	1.5	1.5	<講義内容> ・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ ・生から死への課程 ・「死」に向き合うところの理解 ・苦痛の少ない死への支援 ・終末期ケアとは ・高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰、癌死）） ・臨終が近づいたときの兆候と介護 ・介護従事者の基本的態度 ・他職種間の情報共有の必要性 <演習内容> ・小グループで終末期の家族の感情についてディスカッション
(合計時間数)	52	48	4	

使用する機器・備品等	DVD デッキ DVD (中央法規) 車いす ベッド、浴槽、バスボード、シャワーチェア ポータブル トイレ、尿器、
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 186

商号又は名称：株式会社アイ・エム・シー

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 ＜ウ. 生活支援技術演習＞			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑬介護過程の基礎的理解	3	2	1	＜講義内容＞ <ul style="list-style-type: none"> ・介護課程の目的、意義、展開 ・介護課程とチームアプローチ ＜演習の実施方法＞ <ul style="list-style-type: none"> ・事例による展開 ・小グループでこれまでの学習より、ICF に基づくアセスメント（課題抽出まで）
⑭総合生活支援技術演習	10	10		＜事例による展開＞ 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（一事例 1.5 時間程度で上のサイクルを実施する） ・事例は高齢（要支援 2 程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から 2 事例を選択して支援技術に結び付ける ・安心、安全、安楽、自立支援、尊厳の保持 のすべてを網羅した技術に至っているかを確認し合う
(合計時間数)	13	12	1	

使用する機器・備品等	ベッド 車いす ポータブルトイレ 等
------------	--------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 186

商号又は名称： 株式会社アイ・エム・シー

科目番号・科目名	(10)振り返り			
指導目標	・研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①振り返り	2	2	0	<講義内容> ・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護課程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）
②就業への備えと研修修了後における事例	2	2	0	<講義内容> ・継続的に学ぶべきこと ・研修終了後における継続的な研修について具体的にイメージできるように具体的な講話 ・介護課程の目的・意義・展開のまとめ <演習の実施方法> ・介護課程とチームアプローチについてグループディスカッション
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。